

# もも・ネクタリン特報

# ①

R2. 3. 2 No.1  
J A中野市営農センター  
J A中野市りんご・もも部会

本年は記録的な暖冬傾向で、発芽は平年より大幅に早まると予想されます。第1回目の防除に向けて、剪定作業・SS走行路の確保・SSの試運転等を進めて下さい。

(参考：過去4カ年の発芽日、平岡地区)

白鳳	平年	R2	R1	H30	H29	H28
発芽日	4/2	3/19?	3/31	3/29	4/7	3/30



## 【休眠期（発芽前）の散布】\*もも・ネクタリン共通

◎昨年、縮葉病が発生した園地や、カイガラムシ類の発生密度が高い園地は、休眠期の防除を徹底しましょう。特に、縮葉病は薬剤のかかりにくい部分（樹の上部や先端）に多く発生が見られます。薬剤散布時は、樹全体に薬液がかかるよう、丁寧に散布しましょう。

◎キンセツ水和剤80体系と石灰硫黄合剤体系の2体系を記載しています。

下記の内容をよく読み、いずれかを選択して散布を実施下さい。

①	②
<b>キンセツ水和剤80 体系</b>	<b>石灰硫黄合剤 体系</b>
散布日 月 日 散布量 リットル	散布日 月 日 散布量 リットル
散布時期：発芽前(3月中旬～中下旬)	散布時期：発芽前(3月中旬～中下旬)
散布薬剤 水 98リットル当り スプレーオイル 2リットル キンセツ水和剤80 100g	散布薬剤 水 90リットル当り 展着剤 10ml 石灰硫黄合剤 10リットル
対象病虫害：縮葉病・せん孔細菌病・カイガラムシ類・ハダニ類 散布量：10アール当り 300リットル	対象病虫害：縮葉病・カイガラムシ類・ハダニ類 散布量：10アール当り 300リットル
<b>【注意事項】</b>	<b>【注意事項】</b>
① <u>カイガラムシ類の多発園</u> は、アプロードフロアブルの1,000倍(14日前、3回)を加用する。	① カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイルの50倍を加用する。(アプロードフロアブルは混用不可)
② 混用順：水 ⇒ スプレーオイル ⇒ キンセツ水和剤80	② 石灰硫黄合剤は、隣接するハウスビニールにかからないよう注意する。
	③ 混用順：水 ⇒ 展着剤 ⇒ 石灰硫黄合剤

### 【農薬使用基準】

\*キンセツ水和剤80 ……もも⇒開花直前まで(但し収穫60日前まで)、5回以内。 ネク⇒開花直前まで、5回以内。

### 【せん孔細菌病・カイガラムシ類・コスカシバ防除対策】

- ① **カイガラムシ類**の多発園は、被害部を金ブラシ等で削り落とす作業を実施する。(または、被害枝を切除する)
- ② **せん孔細菌病**発生園は、開花5～7日前にキンセツ水和剤80の1,000倍を特別散布する。  
\*枯れている枝は、見つけ次第切除する。
- ③ **コスカシバ**の発生園では被害部の樹脂を取り除き、フェニックスフロアブルの500倍(開花期まで、1回)を樹幹部に散布、または、ガットサイドS1.5倍液(もも30日前、1回。ネクタリン使用不可)を樹幹部に塗布する。

次回特報発行予定：3月17日(火) 内容：開花前の薬剤散布

次ページもご覧ください

## 【凍害対策について】

樹の枯死は、冬季の気温上昇と3～4月の寒のもどりによって樹体凍害が発生し、それが原因で樹勢衰弱・枯死に至っていると考えられております。また、園内環境（排水性・風当たり等）によっても凍害の発生に差が見られるため、凍害の多発園地では、以下の事項にご注意ください。

### ①稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。（4月下旬頃に除去する）

\*薬剤散布が樹幹にかかりづらい状況になるが、本年は生育が早まると予想され、特に凍害発生が心配されるため、稲わら等の除去を遅らせる。

### ②排水性の悪い園地では、暗きょや明きょ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は、浅植えとする。（定植方法は下記参照）

### ③風当たりの強い園地では、防風ネット、防風林等の導入を検討する。

## 【苗木の植え付けについて】

### ①植え穴は苗木の根の2倍の大きさに、土とユーキリン(1kg)、もみがらくん炭(適量)、エアープイント(完熟堆肥)を混ぜて埋め戻し、定植に備える。

\*ユーキリン(20kg : 3,896円)、もみがらくん炭(300 : 505円)、エアープイント(18kg : 544円)は、営農センターにて取り扱っております。

### ②特に土壌が乾燥しやすいので、植え穴に水をたっぷり入れて植え付ける。（3月下旬～4月上旬に定植する。）

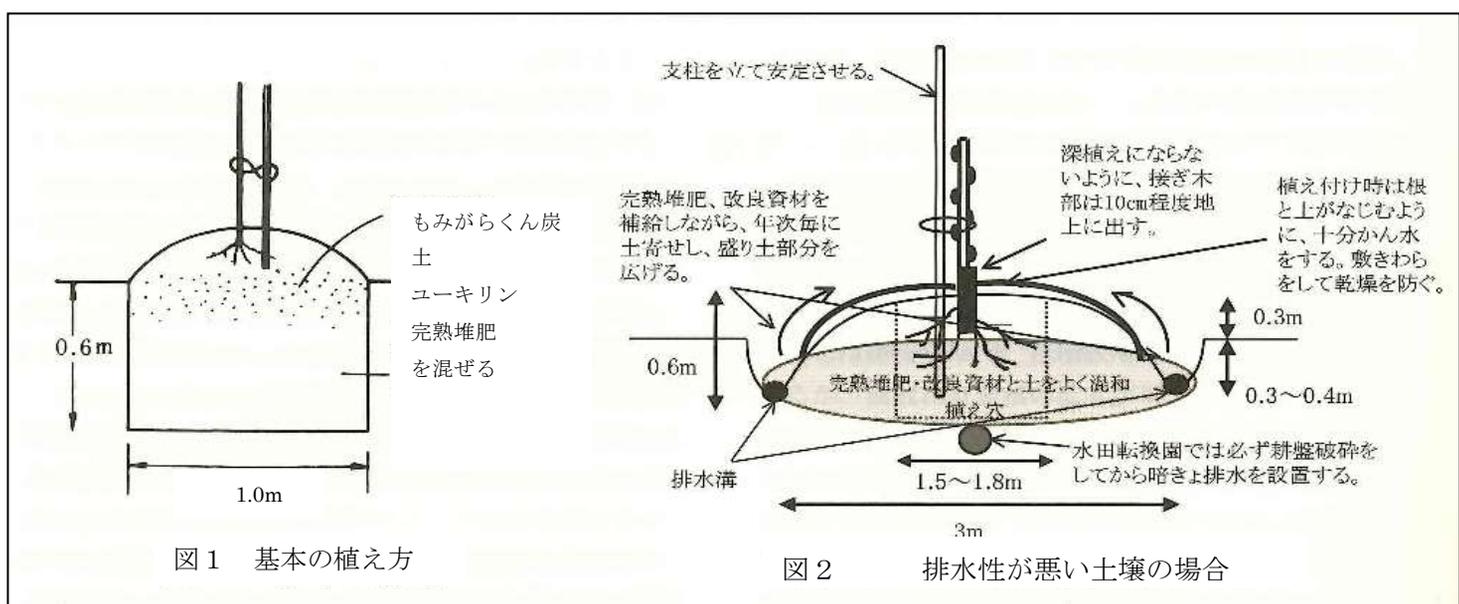
### ③植え付け時は、根を放射状に広げ、各々の根に細土が密着するように丁寧に土をかける。

太根の先端を剪定鋏で切っておくと、発根が良くなる。

### ④植え付けの深さは、接ぎ木部位が地面からわずかに出る程度とする。

### ⑤苗木は支柱を立てて固定し、揺れを防ぐ。

### ⑥苗木の剪定(切り戻し)は定植後に行い、地上部30～50cmの高さで充実した芽の上で切り戻す。



## 【摘蕾】 : 結実の良い品種（白鳳、あかつき、なつっこ等）は必ず実施する。

時期：3月下旬～4月上旬（蕾の先端がピンク色になるまでふくらんだ頃が効率良い）

遅れた場合は落花期までに花摘みを行なう。

### ◎摘蕾の方法

①主枝・亜主枝・側枝など伸ばす枝の延長枝はすべて摘蕾し、垂れないよう強く保つ。

②真上、真下の蕾を除く。斜め、横向きは残す。

③結果枝の長さによる、摘蕾方法は右図を参照。

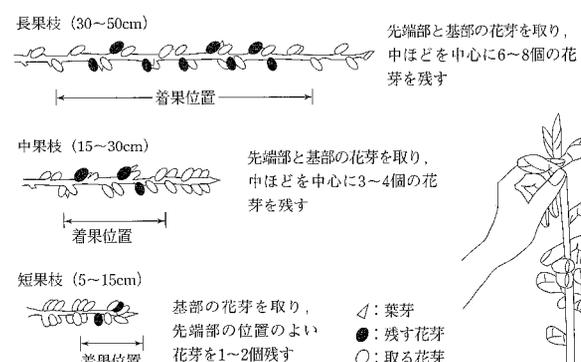


図1-10 摘蕾の方法